

① コーディネーターの発掘

ア コーディネーターの発掘する具体案

1	小学校区（自治会単位）で、自治会役員、PTA 役員、教員、見守り隊はじめ地域有力人材を集め、研修や地域課題を協議する会を開催する。 地域有力人材の定期的な交流や新たな連携の場を作るとともに、各地域において、有力人材の相互把握を容易にする。現職の肩書にとらわれず、地域貢献意識の高い人材を集めることが望ましい。
2	文化協会は、組織に「文化委員」という地域の文化活動をまとめる仕事がある。
3	各種資格所持者にコーディネーター登録制度を設け、一般広報する。
4	各種団体等及びその中核となっている人を記し、把握するとわかりやすくなる。その上で、学校教育との連携であれば、その事案に適した団体、代表者等と具体的に話を進めるとともに学び育つことが出来るのではないかな。
5	ボランティアに頼るだけでなく、労働に応じた報酬を支払うなど、仕事として働いてもらうことを視野に入れる必要がある。
6	地域の中にコーディネーターに対してどのようなニーズがあるか、また、コーディネーターに対する期待がどのようなものか調査すると、求めることが具体化するのではないかな。
7	身分を確定し、仕事の内容に見合った人を募集すれば、応募する人があるのではないかな。 100%ボランティアでやる人の発掘は不可能ではないかな。
8	地域活動に積極的な人を探し出して、その人を核として周囲の人々に声をかけてもらう。 わずかでもよいので報酬があると、市や教育委員会の本気度が理解されるのではないかな。
9	教育・経済・歴史・文学・健康等の領域に分けて、読書会などでお世話していただけるコーディネーターを公募してはどうか。 市内在住の各分野で専門的な著書を持っている人を発掘して、こちらから依頼してはどうか。
10	各自治会のサークル等の代表者、自治会役員、民生委員等で意見交換会を行い、人財を見つける。 また、コーディネーターが地方自治を高める方向に有益かどうかを検討する。

【例】

- ・小学校区（自治会単位）での研修や地域課題を協議する会の開催
- ・コーディネーター登録制度を設ける。
- ・各種団体等及びその中核となっている人の情報を集める。
- ・コーディネーターに求めることを具体化する。
- ・コーディネーターの身分を定め、報酬を払う。
- ・コーディネーターを公募する。
- ・地域活動の核となる人に声掛けをしてもらう。
- ・地域で意見交換を行い、コーディネーターを見つける。

イ コーディネーターを育てる具体案

1	何を繋ぐコーディネーターが必要か、どのような役割を担うべきかを洗い出し明確化し、そのために必要なスキルやノウハウ等の情報を集め、資料化する。それにより、コーディネーター対象者の学習を容易にする。 地域人材交流会などにおいて、他の地域の先行事例の紹介や、地域内での互いの活動や課題共有などを行い、交流・人脈を深めると共に学びを提供する。
2	地域の手伝いをしている人又は自治会の主要な人が受講する講習会や交流会の場を作る。
3	各地区の集まりで、区・自治会長に協力してもらい社会教育の話をする。

【例】

- ・コーディネーターに必要なスキル、ノウハウ等の情報を資料化する。
- ・講習会、交流会の実施
- ・各地区の集まりで、社会教育の話をする。

② 地域と同志社との連携

ア 地域住民と同志社の学生とのつながりを強化するための具体案

1	学生にとって無償でも参加メリットを感じる体験機会を提供することにより、多くの学生に訴求し、持続的な地域との交流を促進する。単発の募集ではなく、同好会など、貢献意識の高い学生のネットワークを作り、継続的に活動し得る環境を目指すのが望ましい。学生個人よりも仲間と参加する方が活動参加の敷居を低くし得ると考える。 地域として比較的容易に対応可能なイベントとしては、小中学生への指導体験、乳児子育て体験、介護体験、農業体験などだろうか？同好会としての継続的活動が軌道に乗ってくれば、学生との共同企画も進めていきたい。 小中学生の指導体験では、スポーツなど専門スキルを要するものから遊びや宿題指導など気軽に参加できるものまで、学生の受け口を広げることが重要と考える。出産前に（あるいは男子学生にとって）育児体験を行うことは社会的にも重要であり、市民にとっても子育てストレスからの開放の一端になればと思う。介護体験も同様である。同志社周辺にも放棄農地や人手不足に悩まされる農家がある。IT やビジネスに興味を持つ学生が多いが、それだけでなく自然や生産の喜びを社会に出る前にこそ感じて欲しいと考える。
2	同志社女子大学のまちづくり委員会と各自治会とで懇談等行い、地域に入って活躍してもらう。
3	文化協会は、新島記念講堂で音楽祭を行っていた。現在も同志社女子大学の学生と交流がある。
4	同志社大学、市民参画課、社会教育課が連携して、放課後子どもプランで行っているような学生の協力を他のまちづくりプランにも活用する方策を市が仲介して進める。
5	クローバー祭等で各地域が出店等行う。 各地域の行事で若者の力が必要なことを企画し、学生ボランティアを募る。
6	住民と学生がともに興味を持っているカルチャー、アート、音楽等のイベントを企画し、学生に運営にかかわってもらうと交流も生まれるのではないかな。 また、市の文化祭等に参加してもらいやすいように配慮する。
7	小中学生、幼稚園児を対象としたスポーツ教室が最も効果的であると考える。 同志社大学が所有している立派な施設で大学生からスポーツを教えてもらえる機会を数多く持つ。
8	大学の教員、学生、地域住民とも自分にメリットがなければ連携する必要性がない。 それぞれがどのようなことをしたいと思っているのかがわかる掲示板があれば良いのではないかな。

9	クローバー祭で市がバス代を補助したのは非常に良いこと。 市民が同志社大学とのつながりを作れると思う。
10	同志社大学は、スポーツに関する部活、演劇、音楽など文系の課外活動がたくさんある。 スポーツに関しては、京田辺同志社スポーツ応援団を組織し、野球やラグビーなどをサポートしながら交流する。 また、文系の課外活動では、演劇・音楽・落語研究会などの発表の場を市民が積極的に提供する。

【例】

- ・学生がメリットを感じる体験機会の提供
- ・持続的に交流を促進できる学生ネットワークを作る。
- ・小中学生への指導体験、乳児子育て体験、介護体験、農業体験などを行う。
- ・同志社女子大学のまちづくり委員会と各自治会とで懇談する。
- ・新島記念講堂を活用する。
- ・学生を同志社と連携していない市の事業に活用する。
- ・クローバー祭等で各地域が出店等行う。
- ・住民と学生がともに興味を持っているイベントを企画
- ・学生に市の文化祭に参加してもらう。
- ・学生が指導するスポーツ教室を行う。
- ・教員、学生、地域住民それぞれがどのようなことをしたいのかがわかる掲示板を作る。
- ・同志社で行うイベントへのバス代補助
- ・京田辺同志社スポーツ応援団を組織する。
文系サークルの発表の場を市民が積極的に提供する。

イ 地域住民と同志社の先生とのつながりを強化するための具体案

1	広く一般市民を対象としたヒューマンカレッジとは別に、大学ならではの先端技術や最新の学会動向を踏まえたより専門的な講座により、地域に関わりの薄い現役世代を掘り起こしたい。時間を作っても受講意欲をそそる様な、よりニッチなテーマ（例えば、生成 AI の理解と利用方法、温暖化と異常気象や豪災害など気象に関する講座、自動運転、宇宙開発、など、今話題になっている内容、講義だけでなくワークショップや電子工作、プログラミング実習などあってもよい）をタイムリーに企画する。できれば単発よりシリーズ化し市民間での異業種交流ができれば望ましい。
2	市の施設で同志社の先生の専門性を生かした講座、講演会（一人の先生がテーマを掘り下げていく複数回の講座や複数の先生による連続講座、地域に関連したテーマで先生と郷土史家等が話す小さなシンポジウム等）を開催する。
3	「京たなべ・同志社ヒューマンカレッジ」、「京たなべ・同志社スポーツクラブ」など、規模の大きな事業が長年にわたって継続されていること、「京田辺・同志社サイエンスアカデミー」「同志社クローバー祭」など、すでに様々な連携事業が実施されている。今後も市が地域に周知し、連携していきたい。
4	市民向けの公開講座、イベント等を多く行う。 スマホの利用方法等、学生による高齢者へのデジタル指導を行う。

【例】

- ・専門的講座やタイムリーな企画を行い、現役世代を掘り起こす。また、それらをシリーズ化し、市民間での異業種交流ができる機会を提供する。
 - ・市の施設で講座（複数回の講座や複数の先生による連続講座）を開催する。
- 市民向けの公開講座、イベント等の実施

③ 地域住民同士のつながり強化

ア 地域コミュニティへの参加を促すための具体案

1	学校行事、祭、清掃活動、防災訓練など、親や子どもにとってメリットのある参加率の高い行事を企画する。また、行事日は家族の予定を空けて参加することが多いと考えられ、単発行事で終わらせず、複数行事を詰め込む方が、つながり向上と、相乗効果による参加者増との両面から望ましい。少しずつでも地域住民間の対話やつながりを深めていきたい。
2	学生の力を借りたり、お金を使ったりして（参加賞、景品等）魅力あるイベントを開催する。
3	マジックショー、古典楽器（尺八、琵琶など）など子どもが喜び、ファミリーが気軽に参加できる事業を行う。
4	強制参加が無理なため、興味がある催しの調査から始める。
5	地域コミュニティに参加しない人は、経済的、時間的にしにくい人や都会的な感覚で地域と一定の距離を置きたいと考える人もいる。 それでも参加したくなるような魅力的な催しをきっかけにしたいところだが、価値観が多様化しており難しい。 防災時は地域住民のつながりが切実になるので、防災をテーマとした活動、催し等が良い。
6	子育て時期、定年後以外は地域住民同士のつながりは時間的に無理ではないか。 「老人会」「ママ友」の集まりで社会教育の必要性を話す機会を設けたり、コーディネーターが出かけたりして勉強会を行ってはどうか。
7	各地区の公民館を活用する。 高齢者等有償で週3～4回公民館に常駐してもらい、地域の人のため場になったらよい。
8	参加を促すことも大切だが、地域の有志を中心に、奉仕や貢献できることを考えることも大切 新しく引っ越しをしてきた人は、様々な手助けが必要。地域コミュニティにお世話になったという環境をどのように作っていくのかが重要 「何かお手伝いしましょうか。」という呼びかけが地域のつながりを強化していくのではないかな。
9	地域の高齢者の中には、様々な能力を持つ人もいる。 特に団塊世代は人数も多く、過去に新しい感覚を持った世代なので良いと思う。 地域イベント等の参加には、仲間よりの声掛けをするようにして広めていく。

【例】

- ・メリットのある参加率の高い行事を企画する。
- ・1日に複数行事を詰め込む。
- ・魅力あるイベントの企画
- ・子どもが喜び、ファミリーが気軽に参加できる事業を行う。
- ・興味がある催しの調査
- ・防災をテーマとした活動、催しを行う。
- ・「老人会」「ママ友」の集まりで社会教育の必要性を話す。
- ・高齢者等が有償で週3～4回公民館に常駐する。
- ・「何かお手伝いしましょうか。」という呼びかけを行う。
- ・仲間よりの声掛けを行う。

イ 地域コミュニティに加入しない人を取り込むための具体案

1	時代の流れとともに、役員の負担軽減が第一、役員になっても助け合える体制など一人に負担がかからない仕組みづくりが急務と思える。 新規参入者や役員を希望しない人には役員を免除するのも手だが、その場合仮に特定の人物に役員が偏ったとしても負担にならないよう役員業務の効率化が必須。 また、その他自治会に参加しない理由を分析し、抜本的にそれらの障害を取り除く取り組みが必要である。 一方、自治会への参加メリットが薄らいでいるのも事実で、共助、交流、共通課題対応などの本来の自治会メリットを明確にし、メリットが向上する様に各自治会の活動計画も見直していくことが急務である。
2	まちづくり協議会と協働して各自治会単位で加入を呼びかける。
3	自治会に入らない理由として「メリットがない」といわれる。住民税を払っているのに、ごみの収集はしてもらえりし、広報紙も手に入る。 しかし、いざ災害等が起こったときは、地域住民同士が助け合うことが必要な場面が起こることが考えられるため、まさかの時のためにも自治会に入るべきだと訴えていきたい。
4	地域コミュニティを敬遠する人の理由（気持ち）を知ることが出発点になる。

【例】

- ・役員の負担軽減
- ・参加しない理由を取り除く。
- ・参加のメリットを周知する。
- ・加入を呼びかける。
- ・まさかの時のために入るべきだと訴える。
- ・地域コミュニティを敬遠する人の理由（気持ち）を知る。